

会議録

会議の名称	令和7年度第1回行田市総合教育会議
開催日時	令和7年11月11日(火) 開会:午後2時00分　閉会:午後3時55分
開催場所	行田市役所本庁舎3階　305A・B会議室
出席者(委員) 氏名	行田邦子市長、渡辺充教育長、鹿山高彦委員、 大竹洋平委員、大木華子委員、田口路子委員
欠席者(委員) 氏名	なし
事務局	教育委員会:諸貫副教育長 学校教育部:細谷学校教育部長、中島教育委員会参事、 嶋村学校教育部次長兼教育指導課長、 岡部教育総務課長、嶋田教育総務課主幹 生涯学習部:長島生涯学習部長、近藤生涯学習課長、 総合政策部:川上参事兼企画政策課長事務取扱、横倉秘書課長、 増子企画政策課主任、滝田企画政策課主任
会議内容	・議事　(1)義務教育学校について (2)学力向上について (3)文化・芸術について
会議資料	・会議次第 ・行田市総合教育会議構成員名簿 ・資料1　義務教育学校について ・資料2　学力向上について ・資料3　他自治体の事例
その他必要項	傍聴者　1名

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>• 次第の「3 議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議では、個人情報を取り扱う予定がないことから、行田市総合教育会議設置要綱第6条に基づき、公開とさせていただく。また、会議録は、発言者名を明記の上、要点筆記で作成し、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて、後日公開させていただく。</p> <p>• それでは、本日の「議事」に入る。要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは行田市長に進行をお願いする。</p>
議 長	<p>3 議事</p> <p>• それでは、暫時、議長を務めさせていただく。</p> <p>• 次第に基づき、順次進めさせていただく。</p> <p>• 次第3「議事」の「(1) 義務教育学校」について、資料に基づき、まず私から説明をしたい。</p> <p>• 私自身、昨年度からの2年間で4校視察した。そこで感じたことを話したい。</p> <p>• 1校目は、つくば市立みどりの学園義務教育学校である。本校は、文部科学大臣に就任した方が必ず先に行くと言われるようなモデル校である。</p> <p>• 私が知りたかったのは、現在のつくば市として、義務教育学校についてどう捉えているのかということである。というのも、義務教育学校について一部の方が否定的であるという話を聞いており、その点を直接つくば市の皆様にお聞きしたいという想いがあった。</p> <p>• まず、つくば市教育委員会としては、子どもたちの教育環境として義務教育学校が望ましいと、現在も肯定的に捉えていることが分かった。</p> <p>• 一方で、直近で新しく開校した学校は、義務教育学校でなく小中分けた学校である。これなぜかというと、つくば市はどんどんと人口が増え、児童生徒数も増えているためである。次につくる学校も義務教育学校が望ましいと考えていたとのことだが、試算上、1校で2,000人を超えることと、さすがに大き過ぎると判断し、やむを得ず小中分離して開校したということであった。</p>

- ・ 実際に視察してみて「やや大きめの適正規模」というふうに感じた。また、規模で全てを語れるわけではなくて、そこで先生たちがどのような教育をし、どのように子どもたちと触れ合うかが大切と分かった。
- ・ 9年制となると、小学校低学年が中学生にいじめられるのではないかという意見もある。実情を確認したところ、むしろ9年制の学校の方が、中学生が自主的に低学年の面倒を見るといった姿勢が見られるという。9年制では小さい子が可哀想だといった懸念はない、むしろ逆ではないかということを、視察してみて感じた。
- ・ 義務教育学校に再建する上で、卒業生など地域の方からの反対はなかったのかということも伺った。
- ・ 学校の統廃合あるいは再建をするときに必ず出てくるのが卒業した人たち、地域の人たちのノスタルジー、「私たちの学校をなくすのか」という意見がつくば市でもあったに違いないと思ったが、「何ですかそれは」という反応であった。
- ・ というのもつくば市は元々人があまり住んでいないところに作られた新しい市ということで、そのような反対はなかったということである。ここは歴史ある行田市の環境とは違うところと思う。
- ・ 2校目は、姫路市立白鷺小中学校である。平成30年の開校ということで比較的古い義務教育学校であり、姫路市では9年制学校が当たり前になっているということを肌感覚で感じた。
- ・ 同校の特長は、9学年全ての先生たちが一つの職員室に集まっているところである。視察時に強く言わされたのがこの点で、全ての先生がひとつの部屋で情報共有する、これが成功の秘訣であり、仮に学校施設が小中で分離されたとしても職員室は一緒にした方が良いとのことであった。
- ・ 3校目は、太田市立北の杜学園である。ここも非常に印象に残ったことがあった。
- ・ まず、説明してくださった教育委員会の皆さん、先生たちが熱い。良い学校をつくったという自負、プライドがとても伝わってきた。
- ・ 視察の主目的がハードの部分であった。同校は、校舎を全て新築にしたのではなく、半分校舎を活かし、残りの半分新しい建物を建てている。
- ・ 新校舎建設でお金をかけすぎると市民の皆さんから反対が出るだろう、削るべきところは削ろうということで、そのような決断に至ったとのことである。
- ・ 建設工事を丸2年かけて行ったとのことで、その間、同じ敷地内の子どもたちは、かなり騒がしい教育環境の中で学んでい

た。子どもたちには本当に大変な思いをさせてしまったと、太田市教育委員会の皆さんも率直な想いで、我々の反省点だと教えてくれた。行田市においても、やはりその間の子どもたちの学ぶ環境をしっかり考えなければいけないと感じた。

- ・もうひとつアドバイスいただいたのが、学校同士の合併が分かった時点での、できるだけ早くから学校同士、子どもたち同士、先生同士、それからPTAや地域の皆さん、それぞれのレベルで交流を進めておくと良いということである。やはり同じ市であってもそれぞれの学校に文化があり、歴史がある。そこを早い段階から一緒に、早くに触れ合っておくことが必要であるといったアドバイスであった。
- ・また、同校では保護者や地域の皆さんとの意見を吸い上げるボトムアップ形式で様々な事を決定しているという。それが学校や教育委員会への信頼に繋がり、開校まで導くことができたというふうにも仰っていた。
- ・ボトムアップ形式の事例の一つが制服だという。制服をどのように扱ったら良いか、保護者や地域の皆さんに意見を聞き、話し合っていただき、その結果として「中1から中3は制服を作る」、「着る曜日を決めて残りの曜日は自由にする」という方針に決定したとのことである。
- ・全ての決め事ではないにしても、やはり保護者や地域の皆さんの意見を吸い上げていくような、皆さんと一緒に学校をつくっていくという姿勢が見られ、これが成功の秘訣なのではないかと感じた。
- ・私が教育委員会にいつもお伝えしていることであるが、学校建設はものすごくお金がかかる。全部新しい校舎を作つたら市の財政は大変なことになってしまう。
- ・それでも、子どもたちの教育環境のことを考えて、かけるべきところにしっかりお金をかけて、良い学校をつくっていかなければなければならないと思う。
- ・このように、多額の費用を投じなければいけない学校建設である。それならば、その建物を学校という子どもたちが学ぶ場だけではなく、地域の皆さんや市民の皆さんが様々な目的で使えるような多目的な建物にしていきたい。タイムシェアという言い方をするが、極論を言うと「この建物は学校ではありません」ということ。公共の建物があり、そこに学校も入っているといった発想の転換をしなければいけないと思っている。
- ・既に体育館や校庭などは地域で皆さんに使っていただいている、学童においても行田市は余裕教室を使わせていただいている。しかしそれだけではなくて、一步、二歩、三歩進んで、こ

	<p>の一つの建物が行田市の様々な公共的機能を兼ね備えている。そのような姿が私の理想である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4校目は、さいたま市立大宮国際中等教育学校である。ここは、政令市であるさいたま市の中高一貫校である。 ・ここで行っている授業や、プログラムなどが直接的に私達がつくるとしている新しい義務教育学校の参考になるかというと、実のところそれは限定的である。 ・ただ、私はこの学校を視察して本当によかったと感じている。新しい学校をつくるということはこういうことなんだと、この学校の開校に携わった方たちと直接お話を聞いて分かったからである。 ・何が必要か。やはり携わっている人たちの情熱なんだということである。こういう学校をつくりたい、子どもたちにこういう学びの場でこういう風に過ごしてもらいたい。そして、そこでこのような子どもたちを育てたい、という熱い思いがなければ駄目なんだということを感じた。これが私にとって、再認識ではあるが大きな収穫であった。 ・今年度中にBブロックの基本構想を策定し、先行して進めていくわけだが、ただ子どもの数が減っているから数合わせで統廃合するということでは決してない。 ・行田の子どもたちが、こういう学びの場で過ごしてもらいたい、こんな学校をつくりたいという情熱を、私達一人ひとりが持って取り組んでいく。それがこの学校再編を成功に導く一番の秘訣だと思っている。 ・以上、私が4校視察した感想をお伝えさせていただいた。 ・委員の皆様から意見を伺いたい。 <p>鹿山委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの市町村も熱意を持って取り組んでいる様子が分かった。やはり皆で学校を作り上げていくというプロセスが大切と思う。 ・例えばつくば市の学校ではSTEAM教育を進めており、良い取組と思う。行田市でもそれは生き抜く力の育成の3本柱の一つとなっている。 ・STEAM教育は、以前はSTEM教育と言われていたものに、芸術のAが加わっている点がとても素晴らしい。 ・個人的な意見として、これにもう1つつけ加えて欲しいと思ったものがある。それは、無から有を創り出す能力《創造力》、クリエイトである。 ・今、AIが盛んに言われているが、AIは無から有を創り出すことはできない。それを創り出せるのは人間のみが持つ能力だと私は思う。そこがAIと人間の決定的な違いである。今は何でもAI A Iだと言われているが、私は危機感を持っている。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> 人が A I に答えを求め、考えることをやめてしまったなら、人類に未来はないのではないか。A I は答えを過去に求めているからである。創造力を養って、「世界に冠たる日本」になって欲しいと私は思う。 そこで、クリエイトの C を、例えば E と A の間に入れて、S T E C A M 教育などと打ち出せば、唯一無二の行田オリジナルの教育になるのではと思う。 ではどうしたら創造力を養うことができるのか。以前の総合教育会議で、子どもの育ちにとって最も大切な事は「知ることよりもまず感じること」といったレイチェル・カーソンの著書「センス・オブ・ワンダー」の話をした。 小さなときに感動を与え、「神秘さや不思議さに目をみはる感性」それを培うことがやはり大切だと思う。
議長	<ul style="list-style-type: none"> A I はあくまで、人間が自ら考え何かを為す際のサポートだと思う。 視察したさいたま市立大宮国際中等教育学校では、知識を習得するよりも論理的思考を培うことを重視していた。「課題解決型の探求的な学び」として進めているという。裏を返すと大学受験に弱いのではないかというふうに言われているようだが、そもそも今のような大学受験が良いのかという意見もある。 知識の習得だけであればもう A I が全て教えてくれる。それよりもやはり自分で考えること、クリエイティブを重視するというのは私も同感である。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> やはり最初の土台作りがすごく大事だなと思っている。情熱をもって、子どものうちから感情を動かすような環境づくりを進めることが必要で、それが教育大綱にもある「生き抜く力」に繋がるものと思う。 私が運営する幼稚園では「見える保育で見えない心を育てる」を合言葉にしている。子どもたちのできること、できないこと。そういう目に見える部分は親も先生も褒められるし、また、どうすればできるようになるか一緒に考えられる。幼少期から「できるまで諦めない」、「報われるまで努力する」、そういう環境を作っていくことが、見えない心を育てる上で大切と思っている。 集団の中で磨き合い、競争して悔しくなること。何が原因で駄目だったのか、解決策を探すこと。そういうのも人との関わりの中で生まれてくる。人は人でしか育てることができないと思う。先生たち一人ひとりが情熱を持って子どもたちと接していくことがとても大切になってくる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結局のところ、先生の指導力・授業力が大きく関わってくる。校長先生など立場ある方が情熱を持って教育の大切さを伝えていくことで、それが教師一人ひとりに伝わり、子どもたちにも伝わる。情熱を大人達が共有していくことが大切である。 ・ 心の育て方、物事の考え方。大切なものは目に見えないものが多い。先生が一人ひとりと向き合う姿勢が大切で、その姿勢が見られれば「この先生がいるから学校に行きたい」や、保護者から「この先生がいる学校に通わせたい」などに繋がってくると思う。私達大人も磨き合っていける環境があると、義務教育学校がより良い学び場になると考える。 ・ また、9年制になるということで、例えば中学生が小1の授業内容を教える仕組みも作れたらよい。教えるってすごく技術が必要なんだなと気づくと思う。教える側に立った中学生が、先生の気持ちに寄り添えるかもしれない。そういう環境もまた学びに繋がると思う。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内外の小中学校を視察してきて、改めて、指導力というのは教育環境で変わってくることを実感している。 ・ 知識を習得するだけなら別に学校に行かなくても十分できる。それでもなぜ学校が必要かというと、やはり人と人が接すること、集団の中で学び見えない部分を育てていくことが大切と考えるからであり、それが新しい学校に求められる姿と思う。
大木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市長が視察を経て感じられた「情熱が大切である」というお考えに、心が新たになり、私もその一助になりたいと感じた。 ・ 合併する学校同士の交流を早くに進めると良いという話があった。本市でも中央小学校と星宮小学校が合併して現在の忍小学校になるときに、ちょうどコロナ禍で苦労されたはずだが、頻繁に交流機会を提供してくれていた。それもあって、スタートしたときには子どもたち同士が既にお友達になっていて、スムーズに馴染むことができたなど保護者として感じていたところである。そのため、今回の義務教育学校の構想においても、PTAや地域の方々、先生方同士の交流というのは、もう既にスタートできるのではないかと思う。 ・ また、「学校を公共の建物として捉える」との考え方方が斬新と感じた。日高市でも学校と公民館を集約したと聞いた。このように地域と連携しながら学校をつくる考えが新しいと思う。 ・ 子どもが減っているから仕方なく合併させるのではなく、全く新しい学校として情熱を持ってつくる。市長が仰っていた「ピンチをチャンスに」、まさに今がその時と思う。

議 長	<ul style="list-style-type: none"> もう既にBブロックは一緒になる学校が決まっているため、交流を進めていただきたいと思う。 日高市はまだ視察に行っていないが、義務教育学校が3つ誕生している。県内の事例も参考にしたい。
田口委員	<ul style="list-style-type: none"> 市長の情熱のあるお考えを伺って、ここに私も関わっていることを大変嬉しく思う。 莫大なお金がかかるため、学校だけでなく、例えば図書館や幼稚園を集約するなど、いろいろと考えられることがある。また、子どもだけでなく、お年寄りを含めて考えてみてもよい。 これは熊谷市の例だが、デイサービスと保育園が併設されているところがある。デイサービスに通うお年寄りが、乳幼児と触れ合って、元気になって帰って来る。同じような仕組みが義務教育学校の構想にあっても面白いと思う。 太田市の例で、半分を2年かけて新築して大変であったという話があった。本市も東小学校の今の校舎を作るときに、2~3年間、暗い体育館を4つに区切って授業をしながら建てた経緯がある。その間過ごした子どもたちは、暗い環境の中で目が悪くなってしまったとか、とてもうるさかったとか、冬も寒かったのではないかなと思う。 子どもたちにとって小学校の2、3年間は非常に大きい。広い土地がある学校であれば、子どもたちにそういう経験をなるべくさせないように、全部新築も検討していただきたいと思う。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学校ができるまでの間の子どもたちの教育環境をしっかり考えて、教育委員会には計画を立ててもらいたい。
渡辺教育長	<ul style="list-style-type: none"> 人間は幸せになるために生まれてきている。我々教育委員会はこの選択肢の多い世の中で子どもたちを歩ませていかなければならない。今の教職員が、そういう使命や熱を持ってやっているかというと、足りない方もいるようである。何のために教育者になったのか、反省させたいと思う。 学校交流についても御意見があったが、今、各校長との面談の中で、ブロックごとの学校交流を推進してくださいとお願いしてある。しかし、それだけでは表面的になってしまふため、まだ予算も取っていなくて説明もしていない内容ではあるが、行田の小・中学校での音楽創造プロジェクトを立ち上げようと考えている。これを令和8年から令和12年の開校までやっていく。 プロジェクトでは、世界的に有名な指揮者の西本智実さんを招きたいと考えている。イメージとしては、市内小中学校で合唱

	<p>やアンサンブルをやり、令和12年の開校時にお披露目をする。子どもたちによる行田ならではの言葉を使って愛唱歌を作り、みんな共通で歌えるようにする。そのような構想の中で、本物のプロにアシストいただいて、音楽を中心に交流しながらやっていきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先日、市内忍小学校吹奏楽部が全日本小学生バンドフェスティバルでブロンズメダルを獲得した。このように行田は元々吹奏楽が盛んな地域である。この文化が途絶えしまうのはやはり寂しい。そうならないよう、今、構想を練っている。 建築費については、予想以上にコンクリートと鉄骨の値段が上がっている。当初想定の1.3倍から1.5倍程度になっている。発想を変えて全部木造でつくるとか、いろいろ考えながらやっていきたい。 全世代が使える学校は私も素晴らしいと思う。一方で、やり過ぎると補助金がもらえない。その辺りはうまくコントロールしながら計画していきたい。 せっかく子どもたちのために義務教育学校をつくるのだから、やっぱり良いものをつくりたい。しかし、無駄なお金は使わない。そのような方向性で進めたいと思う。教育内容についてももっと練っていって、教育委員の皆様にもまた相談させていただきたい。 <p>議長</p> <ul style="list-style-type: none"> 議事（1）の後半のテーマに移らせていただく。 学校再編は実は子どもたちの教育環境整備だけではなく、行田市の地域社会の様々なところに影響が出る。市ではこの「ピンチをチャンスに変える学校再編」を、まちづくりにも活かしていきたいと考えている。 既に市民の皆様にも説明を開始したところではあるが、まだまだ多く方に本構想は伝わっていないと思う。教育委員の皆様には、学校再編は市にとってまちづくりでもある、「学校再編まちづくり」というワンワードで考えていきたいという考えがあるということを御理解いただき、その点について、現在の進捗状況を事務局から説明させていただく。 <p>事務局 (安田参事) 議長</p> <p>《資料1に基づき説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> 今事務局から説明があったとおり、まちなかの「再開発」というイメージよりも「リノベーション」という表現で進めているものである。 昔からの行田のまちなかを復活させよう、集中している公共施設に限りなく民間の資金とノウハウを投入しよう、そのことに
--	--

	<p>よってまちの周囲も元気にしていきたい。学校再編では忍小学校、忍中学校も廃校となる可能性があるため、このようなまちなかの閉校施設も上手に使っていく。学校再編とまちづくりは一体的であると考えている。</p>
大木委員	<ul style="list-style-type: none"> 現時点で具体的にどんな民間機能の導入を想定しているのか。
事務局 (安田参事)	<ul style="list-style-type: none"> これからサウンディング調査等、具体的な調査を進めていくが、何より、どのような事業なら採算が取れるのかが非常に重要であると考えている。様々な民間企業と対話をしながら絞り込んでいきたい。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> 忍小学校や忍中学校、また、市役所も取り壊すような想定なのか。
事務局 (安田参事)	<ul style="list-style-type: none"> これも民間企業との対話を通じてになるが、もし仮にそのまま使って、例えばよく言われる「学校をホテルに変えたい」であるとか、そのような提案があれば対応を検討していきたいと思う。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> 一方で、忍小学校・忍中学校も建設から60年近く経っているため、使い方にも限度があると考えられる。 市役所については既に60年を超え、かなり老朽化が進んでいる。また、産業文化会館の市民ホールについても、部品が壊れると調達がなかなか難しいという状況も出てきている。これらの事情によって、延命するよりも建替えした方が良いという判断が出れば、建替えの方向性で進んでいくことになる。
事務局 (安田参事)	<ul style="list-style-type: none"> 産業文化会館の建替えも考えの中に入っているということだが、取り壊して新しい音楽ホールにするとか、そういうことも一応考えているのか。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> そのとおりである。
大竹委員	<ul style="list-style-type: none"> 素晴らしいことだと思う。
事務局 (安田参事) 議長	<ul style="list-style-type: none"> 要望になるが、駐車場は広くとってもらいたい。 要望として承る。 産業文化会館ホールは千人弱のキャパシティであるが、これはデベロッパーの意見を聞くと「行田市的人口規模では千人のキ

	<p>ヤバはいらない」と言われてしまう。私個人としては色々思いはあるが、皆さんの税金を投入することになる、将来世代の負担も増える、そこはやはり市民の皆さんとの声を聞きながら考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> とにかく民間の資金もうまく呼び込めるかどうかにかかっている。これからサウンディング調査などをしていきたい。 市民の皆さんからほぼ毎日言われるのが、「羽生は新しいものが次々とできるのに行田は何もできない」ということである。なかなか行田の事情としてまとまった土地がないということである。 ところが、市内を見渡せば、この市役所周辺のまちなかが一等地、一番何にでも使える土地である。市内には、そのような土地がすごく限られている。そしてこのまちなかに、老朽化した公共施設が集中しているという状況である。 時を同じくして、学校再編をするということであり、ここは一体的に考えていく。学校再編とまちなかリノベーション、大きな計画が2つ同時進行で進んでいるということを知っていただければと思う。 議事の「(1) 義務教育学校」については、以上でよろしいか。 <p>《意見なし》</p> <ul style="list-style-type: none"> それでは次に、議事の「(2) 学力向上」について意見交換したい。 事務局から資料について説明してもらいたい。 <p>事務局 (細谷学校教育部長)</p> <p>議長</p> <p>鹿山委員</p> <p>《資料2に基づき説明》</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局から説明があったとおり、学力・学習状況調査は教育水準を図るうえで重要な指標の一つである。この学力を上げていくために皆様からご意見を伺いたい。 令和7年度全国学力・学習状況調査結果について教育定例会で詳細な資料を頂いた。そこでは、小学校6年生の国語の「話すこと」、「聞くこと」及び「書くこと」が、算数では「図形」及び「変化と関係」が県や全国平均値から大きく下回っていた。 しかし、中学校3年生は国語の「話すこと」及び「聞くこと」は県や全国平均より多少上回っている。「書くこと」は上回ってはいないものの、平均点と僅差である。中学校3年生の数学の「図形」と「関数」は県平均よりわずかに下回っているが、全国平均よりは上回っている。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生では県や全国平均と大差がない状況にある。 ・全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査正答率の推移を見ても、マイナスがプラスに伸びているところは中学生である。義務教育学校のように小学校5年生、6年生に対して、中学校教諭が専門性を持って指導していくことが、学力向上につながるのではないかと期待する。 <p>大竹委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各幼稚園や保育園で行なわれる教育はそれぞれ異なっていて、それら園児たちが小学校に上がったときに、先生がまとめていくのは相当力量が必要になっていくと思う。保護者の協力を得ながら学力を上げていくということはすごく難しく、同時にやりがいを感じるのではないかと思う。この資料を見て、幼児教育の大切さを改めて感じたところである。 ・先生たちが学力・学習状況調査の目的を持ってこのテストに取り組んでいるのかが気になった。子どもたちにこのテストに目的や目標を持たせた方が、子どもたちも頑張れると思う。 ・また、先生側の立場から生徒の学力向上のためにどうするかという話になるが、家庭教育も必要である。保護者にもご理解をいただきながら進めていった方が円滑に進むのではないかと思うので、保護者に理解をしていただける関係構築も必要であると考える。根本的にその見直しがあると変わってくるのではないかと思う。 <p>大木委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三点申し上げたいことがある。まず、県の教育委員協議会研修会で、学力向上は良好な学級経営が非常に関係していると伺った。これは経験則ではなく、何年も積み重ねたデータから判明している。埼玉県学力・学習状況調査結果の質問票をみると非認知能力に係る「自分には良いところがある」や「学校の先生たちは自分の良いところを認めてくれた」において、肯定的な回答が県と比較しても高い。この点は前向きな数値を感じており、もっと評価されても良いと思う。もちろん、実践的な教育、授業の充実や指導力は大切だと思うが、子どもたちが既に自己肯定感や自己有用感を持って学校生活を楽しめていることは素敵なことであり、いずれ学力向上にも繋がっていくことを期待している。 ・次に、埼玉県学力・学習状況調査の良さは、学力の結果ではなく、学力の伸びに着目している点である。学力が高い学校は必ずしも学力を伸ばしている学校ではない。資料の9ページ、10ページの学力を伸ばした児童生徒の割合を見ると、埼玉県の割合とほぼ同じである。以前いただいた資料によると、学力を伸ばした児童生徒の割合が、小学校6年の国語、数学、中学校
--	---

	<p>1年の国語、中学校2年の国語と、複数の科目で県の数値を超えていている。埼玉県学力・学習状況調査の結果は県平均を下回っているものの、伸びに着目すると良い兆しを感じる。子どもたちも先生達も頑張っていることは見て取れる。そのため、良い点に注目して伸ばしていくというのも方法の一つである。学力は急に向上するものではなく、数年かけてゆっくり伸びるものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次に、保護者として感じる点であるが、我が子がその授業を受けるのは一生に1回その時だけだということ。だからこそ、我が子が受けた授業が最高の授業であってほしい。現在も先生方は忙しい中で研究され、臨機応変に授業を行っていると思うが、改めて子どもたちが受ける授業が一生に1回その時だけであることについて意識してもらいたい。それもまた全体の学力向上に繋がるのではないかと感じている。 <p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> さいたま市や朝霞市、和光市などの人口が多い大きな自治体が県の平均点を上げている。やはり大きな自治体は教育環境も良いが、小さい自治体だと教育環境としては不十分と感じる。そのため、本市にとってはやはり学校を合併して、義務教育学校に移行していくことは必要不可欠と考える。しかし、義務教育学校だけで学力向上を模索するのではなく、他の方法も検討する必要があると思う。 子どもたちは大人よりも遙かにデジタル機器を使いこなすことができる。しかし、鉛筆やペンを持って書くことは小学低学年の時からしっかりとやらなければならない、高学年になって急にできるものではない。タブレットばかりでなく、紙と鉛筆を使用することが大切と私は考える。 最近の子どもたちは鉛筆もうまく持てない子がいる。直そうと思っても1年や2年では直せない。鉛筆をうまく持てないと正しく字を書くことも難しくなってきて、本人が非常に苦労する。言語脳科学者の東京大学酒井邦嘉教授がラジオで「手書きが脳を働かせる」というテーマで話していた。紙にペンでメモを取る方が、パソコンで言葉を打つよりも脳のある部分をより多く活動させることができるということが分かってきているようである。 文字を書くことで、人は心の平安を得ているとも言われている。学力向上のためにもタブレットの使用は必要不可欠と思うが、もっと書写の時間が重要な位置づけになるとよい。綺麗な字を書くだけでなく、鉛筆を正しく持って漢字をしっかりと覚える。書写に時間をかけていただき、書くことを楽しいと思える子どもたちを育てていけたら良いと思う。
--	--

議長	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査及び埼玉県学力・学習状況調査は平均値を示すものであって、個々の児童生徒の伸びを示しているものではないが、本市の学力の状況を示す重要なものであることに変わりない。一喜一憂しても危険であり、ミスリードされることもあると思うが、気にすべき指標ではある。 先生や子どもたちにプレッシャーをかけることが目的ではない。ただ、一つの客観的な指標として、目標としては県や全国平均を上回りたいと思っている。
渡辺教育長	
議長	<ul style="list-style-type: none"> 教育の成果というのは、「桃栗三年柿八年」という言葉があるが、どちらかというと柿に近いものと感じている。学力・学習状況調査は義務教育の機会均等と水準の維持が大きな目的であり、市内各学校の傾向は示されていない。学校ごとで分析をして対処していく。 田口委員から御意見もあったが、デジタル社会になると創造性の部分がかけてしまう。そのため、当面はデジタルとアナログの二刀流でやっていくしかないと思う。 学力・学習状況調査では、できるだけ県平均を上回りたいと思っている。
事務局 (長島生涯学習部長)	<ul style="list-style-type: none"> 議事の「(2) 学力向上」については、以上でよろしいか。 <p>《意見なし》</p> <ul style="list-style-type: none"> それでは次に、議事の「(3) 文化・芸術」について意見交換したい。 事務局から資料について説明してもらいたい。 <p>《資料3に基づき説明》</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> 事務局より鎌倉と軽井沢の事例を紹介させていただいた。これをそのままやるべきということではなく、まずは皆様の意見を伺いたい。 今年の鎌倉芸術祭は第20回だが、20年位前に各地で芸術祭が実行委員会形式で開催されるのがトレンドであった。これらは現在まで続いているものの方が少なく、それだけ継続が難しい、定着しにくいのかなと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> 私としては、行田市の身の丈にあったものとして、質の高い芸術に市民の皆さんが触れる機会を始められないかという思いである。 皆様からご意見を伺いたい。 <p>鹿山委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の文化芸術への取組みはオリジナリティが欲しいと思う。芸術は人生の質を豊かにてくれるものであり、一生その人に寄り添い支えてくれるものであると思う。デジタルではない美しい音楽や絵画の本物の世界に接することで、子どもたちに感動を与えることが大切だと思う。「歴史と芸術の街 行田」というキャッチフレーズもなかなか良いのではないかと思う。 行田で今すぐに何ができるか、考えてみた。行田市教育文化センターみらいの音響施設をすべて新しくしたり改善したりすると時間もお金もかかる。そこで、すぐできる方法として、世界三大ピアノのうちの2つ、スタインウェイとベーゼンドルファーのフルコンサートグランドに取り替えることである。スタインウェイであればコンサートグランド D-274、ベーゼンドルファーであればコンサートグランド 290 インペリアルである。本体の重量があるので、ステージが耐えられるかということは調査して、場合によっては補強をしなければならないが、2台並べての演奏は他ではあまりやっていないと思うので、有名なアーティストにも来ていただけるのではないかと思う。 <p>大竹委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 行田市でもいくつも取り組んでいて素晴らしいと思う。 芸術は会場に目的を持って観に行くのではなく、さりげなく聴こえてきたり、目に入るような身近にあるものがよい。今まで興味がなかった人の耳に、目にふと入ってくるものにこそ、最初の取っ掛かりがあるのではないか。コンサートホールのような会場でなくても、聴いたことがあるっていうことが素晴らしいと思う。行田駅前の交番の前が広場になっているが、そこを活用して、電車を利用する人に音楽や絵画を届けるのもよい。さりげないところにある良い音や良い絵をきっかけに、興味を持つてもらうのも良いと思う。 <p>大木委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市で本物の文化芸術に触れられる機会があれば、とても興味深く、素晴らしいことであると思う。子どもが学校でオーケストラの勉強をしてきたり、美術でゴッホの模写を始めた時に、中々気軽に都内に行くのは難しいと感じている。子どもが興味を示したときに、身近に提供できる場所があればよい。公園に行くように絵が観られる、お茶を飲みに行くように音楽が聴けるような街になったら素敵だと思う。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> 教育長が経済的な格差に起因して、子どもたちの体験格差が起きているとおっしゃっているが、子どもたちは料金を安くみことができれば、将来の選択肢も増えるし、敷居が高いものではないということを感じてもらえるので、とても良いことであると思う。 埼玉県学力・学習状況調査の話に戻ってしまうが、住んでいるところの歴史や自然に興味があるかという質問で、「ある」と答えた子どもの割合が本市は非常に高い。中学校3年生においては、県と比べて15.7%も高い。行田の子どもたちは行田が大好きであると思う。行田にある歴史的価値を活かしながら何かができたらよい。 <p>田口委員</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市は質の高いプロフェッショナルの文化や芸術に触れる機会が少ないと思う。 教育長がおっしゃっていた指揮者の西本智実さんを招いてのプロジェクトは大変期待している。 熊谷文化創造館さくらめいとにベーゼンドルファーとスタインウェイの両方がある。専用の倉庫が必要なため、行田では難しいかもしれないが、小さい形のものであれば大丈夫だと思うので、素晴らしい案だと思う。 <p>議長</p> <ul style="list-style-type: none"> みらいは音響としては響きの良いホールと言われている。ピアノの導入というのも大変良い御意見と思う。 身近なところで文化芸術に触れる環境はとても良いと考えており、それを歴史と融合させていくことは本市ならではである。鎌倉芸術祭を見て思ったが、市内には神社仏閣がたくさんある。そういったお寺や神社を舞台にして期間を決めて、そこにプロの芸術家に来てもらうっていうことも新しいかなと思う。埼玉古墳群や忍城址を加えて面白い。プラスしてJR行田駅前で音楽を行っても素敵だなと思っている。 質の高いプロフェッショナルな文化芸術に触れる環境を作るのは、財源との問題もあるが、本日皆様から頂いた貴重な意見をいただいて、とても勇気が出た。 議事の「(3) 文化・芸術」については、以上でよろしいか。 <p>《意見なし》</p> <ul style="list-style-type: none"> 他にご意見等ないので、これにて本日の議事を終了する。
--	---

司 会

- ・ 以上で、令和 7 年度第 1 回行田市総合教育会議を閉会とする。

〈閉 会〉